【提出様式・CS校】　令和７年度　豊島区立学校　学校評価　自己評価表

豊島区立　池袋第一小　学校

評価対象者数　（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
360	293	18	11

領域	豊島区教育ビジョン2025 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価 児童・生徒 4	3	2	1	保護者 4	3	2	1	0	地域 4	3	2	1	0	教職員 4	3	2	1	自己評価概要	学校関係者による評価 学校関係者評価の意見	標語	次年度に向けた改善策
Ⅱ	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	Ⅱ－１	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					111	99	17	2	18	7	2	0	0	0	7	10	1	0	昨年度より、肯定的な評価が17ポイント増え、分からないの回答も減っている。アンケート前に今年度の取組をまとめた文書を配布したことでご理解いただけたのではないか	保育園交流では、一年生が子供らしい発想で小学校の生活を伝えてくれたことで、不安をもっていた園児が安心した表情をしていた。	A	今年度の活動をベースにして、実現可能な取り組みを増やしていく。池袋中学校ブロックの連携では、三校合同の研究や引渡訓練、作品等の交流を充実させていく。
Ⅰ	学びに向かう力の育成	Ⅰ－１	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。				108	110	14	2	14	7	1	0	0	1	8	10	0	0	分かりやすい授業を行っているについては微減、ICTの活用については微増で、どちらも肯定的な評価が9割近くであった。今年度は、池袋中ブロック三校合同の研究もあり、ICTの効果的な活用を意識して授業を行ってきた。また、主体的な学びを引き出すための協働的な学びも定着してきている。	1年生がICTを活用していた姿に驚いたが、小さいころから慣れ親しむ環境にあるので、早めに取組、正しい活用の仕方を身に付け、学習用具の一つにしていけるとよい。	A	「わかる・できる」に「楽しいをみつける」を加え、児童自身が学び方を選びながら、主体的に学習に取り組めるよう、興味関心を高める導入の工夫や振り返りの指導の工夫について研究を進めていく。ICTの活用については、池袋中学校ブロックの三校で、情報教育や効果的な活用の仕方を学び合い、児童の指導に生かしていく。
		Ⅰ－２	学校は、ＩＣＴ機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。					149	70	21	3	5	6	3	0	0	0	8	10	0	0				
	豊かな心と人間関係の育成	Ⅰ－３	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。					113	99	17	1	18	8	1	0	0	0	8	10	0	0	I-4については、本校の特色の一つである縦割り班活動と関連付けて調査を行ったところ、97%の肯定的な評価であった。昨年度より10ポイント増えている。また、笑顔の花プロジェクトなどで、地域、保護者の方と協働して、フラワーロードの花の植え替えや水やりも定着してきていることも高評価につながっていると考える。	笑顔の花プロジェクトの花を植える作業も6年生が2年生に教えるなど、縦割り班での活動やふれあいが定着している。高学年が低学年の面倒を見る姿が、放課後の学習教室でも見られ、よい流れができていると感じている。	A	本校の特色である縦割り班活動を充実させていくとともに、1学期の池一祭、2学期の笑顔の花プロジェクトなど、その様子を分かりやすく発信していく。また、道徳の授業を要としながらも、様々な体験活動を通して道徳性の育成が図れるよう、カリキュラムマネジメントをしていく。
		Ⅰ－４	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。					132	96	6	1	13	8	1	0	0	0	11	7	0	0				
	健やかな生活を送るための体力づくり	Ⅰ－５	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。					101	107	19	2	19	5	3	0	0	1	7	11	0	0	引き続き高評価だが、体力向上、健康促進については、不十分との回答も8%近くあった。さらに取り組んでほしいと、ニーズが高い項目の一つである。また、わからないの回答もあることから、体育の授業だけでなく、日常的な取組をわかりやすく発信していく必要がある。	以前はもっと子供が走り回れる環境があった。安全で科学的な根拠も取り入れ、子供らしい体力づくりがすすめられるとよい。	B	校庭に体育的教具を設置したり、体力向上を目指す企画を行ったりすることで、体育科の授業だけでなく、休み時間などを活用して、自主的に体を動かしたり運動の楽しさを感じたりできるようにする。また、給食の時間に食に関する短い動画を視聴するなどし、児童が、栄養や食事の仕方などに意識を向けられるようにする。
		Ⅰ－６	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。					197	46	3	1	1	7	2	0	0	0	18	0	0	0				
Ⅲ	多様な子どもに対する支援の充実	Ⅲ－１	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					71	105	18	8	46	6	2	0	0	1	11	7	0	0	いじめ防止についての項目は、肯定的な評価が71%と全項目の中で最も低かったことに加え、分からないの回答も19%だった。学校生活の中で一番気がかりであることがわかる結果である。一人一人に寄り添いながら指導しているの項目は、肯定的な評価が、昨年度より6ポイント高い84%だったことから、組織的な対応について、さらにわかりやすく発信していくことが必要である。	いじめの相談等、話題に出ることもある。学校での取り組みを伝えながら、ギャップをうめていけるとよい。そのためにも、保護者とコツコツと信頼関係を築き、ともに解決を目指そうとする意識改革が必要なのではないか。	B	年度の初めに保護者と懇談する場面を増やすなど、相談しやすい関係を築けるようにしていく。中学年以上で交換授業・教科担任制を行い、複数の目で児童の様子を見ることで小さな変化を見落とさないようにするとともに、児童が相談しやすい大人に相談できるようにしていく。今年度開設したフォレストルーム（支援ルーム）を充実し、学級に入りにくい児童が安心して過ごせる体制を築いていく。
		Ⅲ－２	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					92	115	23	5	13	8	0	0	0	1	13	5	0	0				
		Ⅲ－３	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。					125	77	10	2	34	7	2	0	0	0	14	4	0	0				
Ⅴ	教師力の向上と魅力ある学校づくり	Ⅴ－１	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。					108	101	17	7	15	7	2	0	0	0	6	11	1	0	昨年同様、どちらも肯定的な評価が8割を超えている。	学校全体が落ち着いており、子供たちも安心して過ごせていると感じている。今後も、先生方が明るく元気に活躍できる学校であり続けることを期待している。	A	年度末の学校評価アンケートだけでなく、行事や土曜公開の際にすぐーるを活用したアンケートを実施する。いただいたご意見はすぐに検討し、改善できることは早めに取り組んでいく。明るい挨拶が日々交わせるように、特別活動部と生活指導部が連携して、指導していく。
		Ⅴ－２	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。					101	101	21	5	20	8	1	0	0	0	10	8	0	0				
	家庭・地域との連携	Ⅴ－３	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。					99	105	30	4	10	7	2	0	0	0	9	9	0	0	家庭や地域と協力しながら教育しているの項目は、肯定的な評価が9割近くあった。コミュニティ・スクールの1年目で試行錯誤しながらだったが、体力テストや運動会など、多くの保護者の方が教育活動に参加してくれた。学校や子供たちの様子を分かりやすく伝えているの項目は、肯定的な評価が81%だったものの不十分の評価も13%あった。ホームページについては、さらに改善を求める声があったことから、無理なく発信できる仕組みづくりをしていく必要がある。	授業の様子や子供たちの姿から、一人一人を大切にしながら、保護者、地域とともによりよい学校運営に取り組まれていると感じている。	B	コミュニティ・スクールの２年目にあたり、お二人の地域コーディネーターとともに、学習環境の整備を進めていく。３年生以上の総合的な学習の時間に、地域の行事や活動、PTAの連合行事などを知り、実際に参加して地域の魅力を発信していく学習を新設し、人とつながるよさに気付かせ、地域を愛する心を育成していく。ホームページに関しては、経営支援部を中心に、無理なく発信できる仕組みを作り、教育活動の様子をさらに分かりやすく伝えられるようにしていく。
		Ⅴ－４	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。					132	88	14	3	11	8	1	0	0	0	9	9	0	0				
		Ⅴ－５	学校はコミュニティ・スクールを推進し、保護者・地域住民等が学校運営に参画し、学校と一体となって子どもたちを育む体制を構築している。					101	85	21	3	44	8	1	0	0	0	8	9	1	0				
	特色ある教育活動	Ⅴ－６	学校は、「90周年　みんながつながる森の中の学校」を目指して、地域や保護者とともに行事を行ったり環境教育などの教育活動を行ったりしている。					144	79	5	4	15	8	1	0	0	0	11	7	0	0	肯定的な評価が9割を超え、90周年の節目の年を地域や保護者の方と協働して取り組んだり、笑顔の花プロジェクトをネットワーククラブの皆様と取り組んだりしていることが評価してもらえたと考える。	創立90周年という節目の年で、例年と異なる取組も多い中、先生方が協力し合い前向きに取り組んでいる姿に、保護者としていつも感心している。	A	引き続き、「森の中の学校ネットワーククラブ」と連携し、地域の教育力を生かした「森の中の学校」づくりを推進する。池袋中町小と連携した教育では、ICTを活用した校内研究をもとに、９年間を見通した情報教育や学習指導について検討していく。
Ⅳ	働き方改革	Ⅳ－１	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															8	10	0	0	金曜日を5時間授業にし、会議も入れないことで、余裕をもたせている。授業時数がぎりぎりで調整が難しいことに課題を感じている。	以前は、勉強は学校で、しつけは家庭で行うことが一般的だったが、そうではなくなってきているのではないか。難しいことも多いが、体も心も休められるようにしてほしい。	B	働き方改革についても、池袋中学校ブロック三校で情報を共有し、ICTを効果的に活用していく。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。　A　評価は妥当である　　B　評価はおおむね妥当である　　C　評価は妥当ではない　　D　評価方法を見直す必要がある